

令和 5 年 5 月 21 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12210

研究課題名（和文）20世紀アメリカ・ユダヤ思想家からみるシオニズム思想：その批判と受容の変遷史

研究課題名（英文）Criticism and acceptance: Historical developments in Zionist thought among 20th Century American Jewish Scholars and Rabbis

研究代表者

石黒 安里（Ishiguro, Anri）

同志社大学・アメリカ研究所・助教

研究者番号：40802583

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、とりわけ改革派ユダヤ教の草創期のラビから1940年代に至るまでのラビらのシオニズムに関する事例を取り上げることで、従来、「反シオニズム」的な態度として知られていた改革派ユダヤ教の中にも、シオニズムに親和的なラビらが存在していたこと、アメリカの改革派ユダヤ教とシオニズムの関係が20世紀を通してより複雑なものになっていった過程を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

一般的にアメリカ・ユダヤ人社会では、政治的シオニズム運動のあり方に反対の姿勢を示してきた。その傾向はユダヤ教を信奉するグループでも同様であるという理解があった。本研究では、主にアメリカにおける改革派ユダヤ教のシオニズムに対する両義的な態度、およびシオニズムに対する相反する見解があったことを改革派の綱領や一次史料から示すことで、従来の改革派ユダヤ教のシオニズム観の多様性、変容の一端を提示した。

研究成果の概要（英文）：Longstanding conventional wisdom holds that American Reform Judaism has been generally oppositional toward political Zionism. However, this study revealed diverse interpretations of “Zionism” among even the pioneer rabbis in Reform Judaism and, further, illuminated a controversy in the 1940s between Reformed rabbis who can be variously described as pro-Zionists, Philo-Zionists, non-Zionists, and anti-Zionists. As a result, this study demonstrated that the relationship between Reform Judaism and Zionism in America was never as simple as traditionally presumed and in fact became more ambiguous and complex through the 20th century.

研究分野：ユダヤ学、宗教学

キーワード：改革派ユダヤ教 シオニズム アメリカ・ユダヤ教 イスラエル カウフマン・コーラー 「コロンバス綱領」（1937年） 祈祷書 ユダヤ人女性

1. 研究開始当初の背景

(1) アメリカ・ユダヤ人社会が文化的シオニズムを容認する背景とは何か。このことが当該研究開始当初(2018年度開始)の本研究課題が成す中心的な問いであった。文化的シオニズムあるいは精神的シオニズムとはディアスポラ(イスラエル以外)の地に居住しながらイスラエルを自分のアイデンティティ保持のために必要不可欠であるとするシオニズム思想のあり方である。この場合、必ずしも国家としてのイスラエルを支持しているわけではない。ホロコースト以前のアメリカ・ユダヤ人社会では、イスラエル国家建設に繋がる政治的シオニズム運動には一定の距離を保ち、政治的シオニズムの思想には反対の姿勢を示す者が大半であった。ではアメリカにおいて文化的シオニズムの受容はどのような形で展開したのか、また、「シオニズム」に含意される意味をどのように解釈してきたのか、これらの問題意識のもと、アメリカ・ユダヤ人のシオニズムに対する批判および受容の変遷過程に関して明らかにすることは、研究当初の目的であった。

具体的には、アメリカにおける初期の改革派ユダヤ教の指導者の一人であるカウフマン・コーラー(Kaufmann Kohler, 1843-1926)のシオニズムに対する批判やシオニズム理念の受容の変遷過程を取り上げるものであった。

(2) 研究開始以降、一次史料収集の主な文書館である、American Jewish Archives(AJA)(於：シンシナティ)での研究調査機関中に、ミヒャエル・A・マイヤー名誉教授(Dr. Michael A. Meyer, Professor of Jewish History Emeritus at the Hebrew Union College-Jewish Institute of Religion in Cincinnati)とゲイリー・P・ゾラ教授(Dr. Gary P. Zola, The Executive Director of The Jacob Rader Marcus Center of the American Jewish Archives, Professor of the American Jewish Experience & Reform Jewish History at Hebrew Union College-Jewish Institute of Religion in Cincinnati)の両氏から知見提供を受け、特に Dr. Meyer の助言により、当該研究テーマを狭義の意味での「思想家」に限定せずに、アメリカの改革派ユダヤ教の展開の中で、シオニズムの批判と受容の歴史を捉える視点へと研究テーマを拡大させた。Dr. Meyer はドイツに始まった近代のユダヤ教における改革運動の専門家であり、改革派ユダヤ教がアメリカへと展開していった歴史的背景やアメリカの改革派の一部がシオニズムへと親和性を示すようになった転換点に関しても詳しいため、何度か面談を重ねる上で、当該研究テーマに関して軌道修正を行なった。

2. 研究の目的

(1) 今日、アメリカ在住のユダヤ人の多くは、現在のイスラエル国家の政治的な態度(入植地の拡大、パレスチナ人に対する人権抑圧)に対しては批判的である。文化的シオニズムの価値観を抱いている層においても現在のイスラエル政府の政策には批判的である。しかし、文化的シオニストはイスラエルという存在が自らのアイデンティティ保持に一定の影響を与えてもいる。本研究は、そのような自己認識が間接的にイスラエル国家の容認にどの程度繋がっているのか、これらの複雑なシオニズム解釈に関して、20世紀を通していかに、文化的シオニストらが「シオニズム」を解釈してきたのかについて考察をすることを目的としたものである。

(2) 「シオニズムはユダヤ教に反するものである」という正統派ユダヤ教の論理以外のユダヤ教のシオニズムを巡る多様な主張を紹介することも本研究課題の目的として掲げた。そのこともあり、研究開始当初から、改革派のラビであったコーラーに着目し、その後、改革派ユダヤ教全体の動きを捉えていく方針をとった。

3. 研究の方法

研究開始当初は、コーラーやカプランの著作およびアメリカの改革派ユダヤ教に関する二次文献を渉猟した。その後、2019年2,3月に上述の American Jewish Archives やニューヨークにある図書館(Bobst Library や The Dorot Jewish Division, NYPL)などで一次史料の収集や日本では入手困難な古書を精読した。その折には、コーラーの日記や書簡だけでなく、改革派のラビでもあったスティーブン・S・ワイズ(Stephen S. Wise, 1874-1949)に関する一次史料(とりわけ、シオニズムに関連した書簡、講義録、スピーチ原稿、説教など)の収集にも着手した。その後、2019年8月(約二週間)および2020年2月(約一ヶ月)も上述の文書館および図書館で、改革派ユダヤ教の綱領や Central Conference of American Rabbis(CCAR)の議事録、刊行物などを収集した。

また、先述のマイヤー名誉教授、ゾラ教授から知見提供を受けるとともに、2020年2月には、初期のアメリカ・シオニズム史を専門とするマーク・A・レイダー教授(Dr. Mark A. Raider, Professor of Modern Jewish History in the Department of History (College of Arts &

Sciences) and Director of the Center for Studies in Jewish Education and Culture (College of Education), University of Cincinnati)からも知見提供を受けた。なお、ラビが伝統的に「イスラエルの地」をいかに解釈してきたのかという点に関しては、ハナン・マゼー氏 (Dr. Hanan Mazeh、当時、The Berkowitz Research Fellow, New York University, School of Law 在籍) から知見提供を受けた。

4. 研究成果

当研究課題は当初、三年間 (2018～2020 年度) で実施する計画を立てていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、海外への渡航が困難となり、パネルでの報告を予定していた海外の学会 (IAHR) が中止になった。また、American Jewish Archives などの文書館も長期にわたり閉館 (あるいは制限付きの利用) が続いていた (2021 年 5 月中旬の時点でも閉館していた)。2021 年度の冬にアメリカでの研究調査を計画していたが、12 月のオミクロン株の流行により、当時の所属受け入れ先の方針に従い、渡米が困難になった。そのため、新型コロナウイルス感染症の特例措置を利用し、二年間連続で研究期間の延長を申請した。2022 年度の 6 月には The Association for Israel Studies の第 38 回年次大会で報告することができ、現地で新たなネットワークを形成することができた。しかし、その折に COVID-19 に罹患し、その後、長期間にわたって体調不良が続いたこと、さらに 2022 年度は現在の所属先の着任一年目であったこともあり、用務などの関係で、最終年度であった、2022 年度中に、残っていた一次史料の収集を完了することができなかった。

パンデミック期間中は、これまで集めた一次史料の精読や二次文献の渉猟に努めた。二次文献に関しては、とりわけ 2022 年 8 月に当該研究課題にとって重要人物の一人である S・S・ワイズに関する最新の研究 (Shirley Idelson, *We Shall Build Anew: Stephen S. Wise, the Jewish Institute of Religion and the Reinvention of American Liberal Judaism* (Tuscaloosa: The University of Alabama Press, 2022.)) が刊行されたことにより、今後の研究の発展に繋がる課題を得ることができた。

本研究に関して得られた主な研究成果は、6 点あげることができる。

(1) K・コーラーのシオニズム観の揺れ

カウフマン・コーラーはアメリカの改革派の草創期を支えたラビの一人であるが、コーラーのシオニズムと女性の地位に関する態度が曖昧であったことを指摘し、初期の改革派ユダヤ教内において、シオニズム観がすでに多様な形態であったこと、また改革派ユダヤ教において当時の段階ではまだ女性の地位が限定的であったことを指摘し、従来の改革派ユダヤ教のイメージに対して問題提起をした。同内容は、2018 年 8 月、国際シンポジウム (The Third Symposium on Jewish Studies, A collaboration between CISMOR, the Faculty of Theology, Doshisha University and The Faculty of Humanities, The Hebrew University of Jerusalem) で報告を行ない、その後、プロシーディングス ("Progress and Ambiguities: Kaufman Kohler's Vision for Jewish Women and Zionism during the Transitional Period of the Reform Movement," in *Judaism in Modern Era: Interpretative Studies of Ancient and Current texts: Proceedings of the Third International Symposium on Jewish Studies*, Ada Taggar Cohen (ed.) pp. 102-111.) が 2019 年 3 月に刊行された。

(2) 改革派ユダヤ教に流れる親シオニズム的な傾向の歴史と今日の比較

2019 年 3 月に外務省の派遣事業である第二回カケハシ・プロジェクト「ユダヤ研究者派遣」に参加し、アメリカにおける改革派シオニスト団体 (The Association of Reform Zionism of America) の総裁を務めた人物でもあるラビ・ジョン・L・ロソベ氏と面会する機会があった。その訪問時の報告と、American Jewish Archives の紹介、および史料調査の一部成果を報告する「滞在レポート」を兼ねた研究ノートを発表した。「米国改革派ユダヤ教における多様なシオニズム解釈を探る 史料と現状からの報告」『一神教学際研究』15、一神教学際研究センター、2020 年 3 月、64-78 頁。

(英語訳: "Exploring Different Interpretations of Zionism within American Reform Judaism: Report on Historical Documents and Current Situation," in *JISMOR* 15, March 2020, pp. 63-76.)

(3) 現在の改革派ユダヤ教とシオニズム理解について

招待を受け、次の論考を提出した。「アメリカにおけるユダヤ教の現在地 二極化する支持政党の傾向とイスラエル国家をめぐる諸見解から」『一神教学際研究』17、2022 年 3 月、27-38 頁。同論考には、本研究課題遂行の過程で得た、現代のアメリカ・ユダヤ人、とりわけ改革派ユダヤ教のシオニズム理解に関する成果が含まれている。

(4) 1943 年のアメリカの改革派ユダヤ教内のシオニズム理解をめぐる論争

当該テーマに関して、2020 年 9 月に第 76 回北九州アメリカ史研究会 (オンラインで実施) に

において報告の機会があり、その後、当研究会で受けた指摘をもとに、さらに同時代のアメリカ・ユダヤ人が置かれていた歴史状況および改革派ユダヤ教のラビらの個人的背景を絡めて考察しなおしたものを、2022年6月のThe Association for Israel Studiesの第38回年次大会において報告した。同報告内容の要点としては、これまで改革派ユダヤ教内にはシオニズムに批判的な勢力が優勢であったが、1943年のCCARの大会においては、シオニズム解釈をめくり分裂状態にあった点について一次史料を基に提示した。

(5) その他、研究期間中に、日本宗教学会、Association for Israel Studies、北九州アメリカ史研究会、アメリカ学会、九州西洋史学会のシンポジウム、その他、科研費ワークショップや同志社大学一神教学際研究センターのセミナーなどで報告した。

とりわけ、日本宗教学会での報告は、1920年代のアメリカの改革派ユダヤ教のシオニズムの特殊性、1940年代の改革派ユダヤ教に見られたシオニズムの両極性、また改革派ユダヤ教の祈禱書の変遷からシオニズム観を探る報告を行なった。日本宗教学会での報告に関しては、『宗教研究』(別冊)に報告要旨が掲載されている。

詳細は researchmap(https://researchmap.jp/a_o_ishiguro?lang=ja)を参照。

(6) 研究会の企画・運営

本研究課題の知見提供者であった上述のハナン・マゼー氏を講師に迎えて、下記のセミナーを同志社大学一神教学際研究センターとともに共催した。

CISMOR Seminar no5./2022(企画・運営、司会)

日時: 2022年11月6日(日) 9:30~11:00

形式: オンライン開催(Zoom)

主催: 同志社大学一神教学際研究センター、CISMOR リサーチフェロー研究会(ユダヤ学部門) 第5回「シオン/エルサレム/聖地」観の再検討: 聖書テキストから今日に至るまで」共同企画

講師: Dr. Hanan Mazeh (The Berkowitz Research Fellow, New York University School of Law)

司会: Dr. Anri Ishiguro (Assistant Professor, International Institute of American Studies, Doshisha University)

テーマ: “And the Lord your God will bring you into the land that your fathers possessed, and

you shall possess it (Deut. 30:5): The Land of Israel in Rabbinic Literature”

上記 CISMOR リサーチフェロー研究会(ユダヤ学部門)は、当研究課題採択中に同志社大学一神教学際研究センターの共同研究員として、同じく共同研究員である平岡光太郎氏と共に、CISMOR リサーチフェロー研究会(ユダヤ学部門)「シオン/エルサレム/聖地」観の再検討: 聖書テキストから今日に至るまで」を企画したものであり、2019年度より開始、2023年5月の時点でセミナーを6回開催してきた(開始当初は、「CISMOR ワークショップ」という名称であったが後に改称)。

研究期間の後半にパンデミックが重なったことで、研究計画の変更を余儀なくされ、S・S・ワイズに関する論文の完成に必要な一次史料を収集、閲覧することができなかった。本研究で残された課題、特に S・S・ワイズのシオニズム観、とくにワイズの独自のユダヤ教理解やアメリカのリベラルな価値観がいかに「シオニズム」に影響を及ぼしたのか等に関しては、次の課題、若手研究「アメリカ改革派ユダヤ教を中心とした「リベラルなシオニズム」: その形成過程と展開」(研究期間 2023~2026 年度)の中でさらに内容を精査し、展開していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 石黒安里	4. 巻 第17号
2. 論文標題 「アメリカにおけるユダヤ教の現在地 二極化する支持政党の傾向とイスラエル国家をめぐる諸見解から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『一神教学際研究』（JISMOR）	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石黒 安里	4. 巻 15
2. 論文標題 【研究ノート】「米国改革派ユダヤ教における多様なシオニズム解釈を探る 史料と現状からの報告」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一神教学際研究	6. 最初と最後の頁 64-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Anri Ishiguro	4. 巻 15
2. 論文標題 【Research Note】“Exploring Different Interpretations of Zionism within American Reform Judaism: Report on Historical Documents and Current Situation”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JISMOR（『一神教学際研究』の英語訳）	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石黒 安里	4. 巻 10
2. 論文標題 「革新主義期のアメリカ・ユダヤ人女性団体によるユダヤ教(Judaism)解釈の諸相 NCJWとHadassahを事例に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一神教世界	6. 最初と最後の頁 20-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Anri Ishiguro	4. 巻 -
2. 論文標題 “Progress and Ambiguities: Kaufmann Kohler’s Vision for Jewish Women and Zionism during the transitional period of the Reform Movement”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ada Taggar-Cohen (ed.) Proceedings of the Third International Symposium on Jewish Studies: Judaism in Modern Era: Interpretative Studies of Ancient and Current Texts	6. 最初と最後の頁 102-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 石黒安里
2. 発表標題 「中絶論争からみるアメリカのユダヤ教」
3. 学会等名 日本宗教学会第81回学術大会（於：愛知学院大学、報告：オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Anri Ishiguro
2. 発表標題 “Rethinking American Reform Judaism and Zionism: The interpretation of ‘Zionism’ in 1943”
3. 学会等名 The Association for Israel Studies, 38th Annual Conference, at Bar-Ilan University (Israel)（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石黒安里
2. 発表標題 「アメリカ・ユダヤ人の信仰と政治的分極化 近年の動向を中心に」
3. 学会等名 アメリカ学会第56回年次大会、部会B「アメリカ宗教と対立・融和・変革」（於：中央大学多摩キャンパス）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 「アメリカ・ユダヤ人の信仰と社会への参与：Tikkun Olamの現代的展開（「世界の修復」から「社会的正義」へ）」
3．学会等名 九州西洋史学会2022年度春季大会、シンポジウム「ホロコースト・空襲・公民権運動：マリオン・イングラムの経験と記憶をめぐって」（オンライン報告）（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 「自己解題：現代アメリカにおけるユダヤ教の境界線 女性ラビをめぐって 」
3．学会等名 「宗教と風紀」連続講演会、セッション4:「風紀と宗教者」（オンライン開催）（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 「米国改革派ユダヤ教のシオニズム観 祈禱書改訂の事例から 」
3．学会等名 日本宗教学会第80回学術大会（オンライン開催）
4．発表年 2021年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 「合評会「現代アメリカにおけるユダヤ教の境界線 女性ラビをめぐって 」」（『宗教と風紀』岩波書店、2021年、所収）の紹介」
3．学会等名 2021年度科研費研究会（主催：科研費「寛容と不寛容に関する議論形態の分析 啓蒙期の哲学者メンデルスゾーンの事例を中心に」研究代表者：後藤正英）、（報告形式：オンライン）（招待講演）
4．発表年 2021年

1. 発表者名 石黒安里
2. 発表標題 「「巡礼」の現代的解釈：アメリカ・ユダヤ人を事例に」
3. 学会等名 CISMORリサーチフェロー研究会、第3回「シオン／エルサレム／聖地」観の再検討：聖書テキストから今日に至るまで」同志社大学－神教学際研究センター（CISMOR）（報告形式：オンライン）【研究会企画】
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石黒安里
2. 発表標題 アメリカにおける改革派ラビたちの「シオニズム」解釈：1940年代を中心に
3. 学会等名 第76回北九州アメリカ史研究会（報告形式：オンライン）2020年9月12日（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Anri Ishiguro and Kotaro Hiraoka
2. 発表標題 Report on the study Tour with KAKEHASHI project in the USA（ポスター報告は日本語で実施）
3. 学会等名 The First CISMOR Young Scholars' Research Group Workshop
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石黒安里、向井直己ほか
2. 発表標題 「歴史的背景」＋座談会「ユダヤ社会の“いま” カリフォルニア・ユダヤ社会に飛び込む」
3. 学会等名 神戸・ユダヤ文化研究会第1回文化講座
4. 発表年 2019年

1．発表者名 Anri Ishiguro
2．発表標題 Keeping Two Zions: The Ambiguity of Americanized Zionism in the Developing Context of Reform and Conservative Judaism
3．学会等名 Association for Israel Studies, 35th Annual Conference at Kinneret Academic College, (Israel), June 24-26 2019 (国際学会)
4．発表年 2019年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 米国改革派ユダヤ教の両極性 1940年代のシオニズム解釈
3．学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 1910～1920年代のアメリカにおける「シオニズム」の多義性
3．学会等名 日本ユダヤ学会、2019年度関西例会（招待講演）
4．発表年 2019年

1．発表者名 石黒安里（報告者、ワークショップ共同企画者）
2．発表標題 アメリカ改革派ユダヤ教のシオン解釈：『コロンバス綱領』（1937年）に至る背景
3．学会等名 CISMORワークショップ、第1回「『シオン／エルサレム／聖地』観の再検討：聖書テキストから今日に至るまで」
4．発表年 2019年

1．発表者名 石黒安里
2．発表標題 ユダヤ教における「社会的正義」の再解釈：アメリカ・シオニズム・モラルティの文脈から
3．学会等名 ワークショップ「風紀のトボス」(主催：基盤研究(B)「現代ムスリム社会における風紀・暴力・統治に関する地域横断的研究」ほか)
4．発表年 2019年

1．発表者名 Anri Ishiguro
2．発表標題 Short Research Description “Cultural Zionism in America; American Judaism and Women”
3．学会等名 CISMOR, First Young Scholars' Research Group Workshop, In collaboration with the School of Theology, Doshisha University
4．発表年 2018年

1．発表者名 石黒 安里
2．発表標題 シオニズムへの相反する態度から見る改革派ユダヤ教のアメリカ化 カウフマン・コーラーを中心に
3．学会等名 アメリカ学会、第52回年次大会
4．発表年 2018年

1．発表者名 Anri Ishiguro
2．発表標題 Rethinking Americanized Cultural Zionism and the Making of American Judaism from the 1900s to the 1920s
3．学会等名 Association for Israel Studies, 34th Annual Conference, at the Berkley Institute for Jewish Law and Israel Studies, University of California, Berkley School of Law (Berkley, CA), June 25-27, 2018. (国際学会)
4．発表年 2018年

1．発表者名 Anri Ishiguro
2．発表標題 Progress and Ambiguities: Kaufmann Kohler 's Vision for Jewish Women and Zionism during the Transitional Period of the Reform Movement
3．学会等名 The Third International Symposium on Jewish Studies (国際学会)
4．発表年 2018年

1．発表者名 石黒 安里
2．発表標題 1920年代米国の改革派ユダヤ教の特殊性 そのシオニズム的傾向
3．学会等名 日本宗教学会、第77回学術大会
4．発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1．著者名 石黒安里	4．発行年 2022年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 790
3．書名 「クリスチャン・シオニズム」『キリスト教文化事典』、キリスト教文化事典編集委員会（編）（580-581頁）	

1．著者名 石黒安里「現代アメリカにおけるユダヤ教の境界線 女性ラビをめぐって 」	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 370
3．書名 『宗教と風紀<聖なる規範>から読み解く現代』高尾賢一郎・後藤絵美・小柳敦史（編）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap「石黒安里」
https://researchmap.jp/a_o_ishiguro

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------